



元町だより

令和 8 年度
10 月号

楽しみながら体を動かす経験を

文京区立認定こども園元町幼稚園
副園長 澤田 亮

例年残暑が厳しい 9 月も、今年は涼しい日や雨の日が続いて過ごしやすい一方で、外で遊べない日が続くこともありました。貴重な晴れ間には、子どもたちが「早く外に行こうよ！」と我先に保育室から飛び出してきて、園庭がみるみるうちに賑わってきます。園庭でもホールでも思い切り体を動かして遊ぶ姿を見ると、「子どもは全身で喜びや楽しさを表現するんだ」と改めて強く感じます。

ある日、僕が職員室で仕事をしていると、りす組の子どもたちが列になって嬉しそうに廊下を歩いていました。後ろをついてホールに行くと、担任が置いた滑り台やジャンプ台、巧技台にかけられたハシゴが目に入りました。子どもたちは「わあ！」「やったー！」と気になった遊具に走り寄って遊び始めました。ハシゴに手をかけてゆっくり慎重に渡る子もいれば、ハシゴとの間に足を入れてまたいでいく子もいました。ジャンプ台ではピョンと飛び降りる子もいれば後ろ向きに降りる子もいます。それぞれ自分なりにできるやり方で楽しんでいました。きっと、自分の中で「できそうだな」と思ったら試してみて「怖いな」と思えばやり方を変えてみて、子どもなりに自分のできることを測りながら動いているのでしょう。「もう一回！」と繰り返し取り組んで、終わったあと子どもたちは満足そうな笑顔で廊下を帰っていきました。

幼稚園教育要領解説には、「幼児が自分で状況に応じて機敏に体を動かし、危険を回避するようになるためには、日常の生活の中で十分に体を動かして遊ぶことを通して、その中で危険な場所、事物、状況などが分かたり、そのときにどうしたらよいかを体験を通して学びとっていくことが大切である」¹とあります。

様々な遊具で体を動かす 2 歳児も、園庭でサッカーや鬼遊びをしている子どもたちも、教師が「やりなさい」と言ったわけでも渋々やっているわけでもありません。幼児の遊びや活動は主体的なものでなくてはなりません。興味や関心、意欲をもって取り組むからこそ、夢中になり、学びも深まっていきます。体の動かし方や俊敏性、持久力など身体的な育ちとともに、充実感や達成感など心情的な育ちにつながり、一人一人の自信と次への意欲をもてるようになると考えます。

10 月 10 日はいよいよ運動会です。子どもたちが緊張しながらも思い切り体を動かしたり表現したりすることを楽しむ姿に、ぜひ温かい応援と大きな拍手をよろしくお願いいたします。

¹ 幼稚園教育要領解説 P82